**SQL Server 2016 Developer with Service Pack 1 (x64)**

**のインストール**

最終更新: 2017年11月18日

**URL**: https://www.kunihikokaneko.com/dblab/toolchain/sqlserver2016.docx

もしくは https://www.kunihikokaneko.com/dblab/toolchain/sqlserver2016.pdf

SQL Server 2016は，リレーショナルデータベース管理システム．

**キーワード**：SQL Server 2016, SQL Server Management Tools, ODBC データソース, Windows

**目次**

１．インストール手順　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

２．SQL Server Management Tools のインストール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

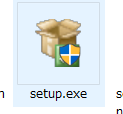
３．ODBC データソースの作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

４．ODBC データソースにA5:SQL MK-2 を用いて接続　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

**１．インストール手順**



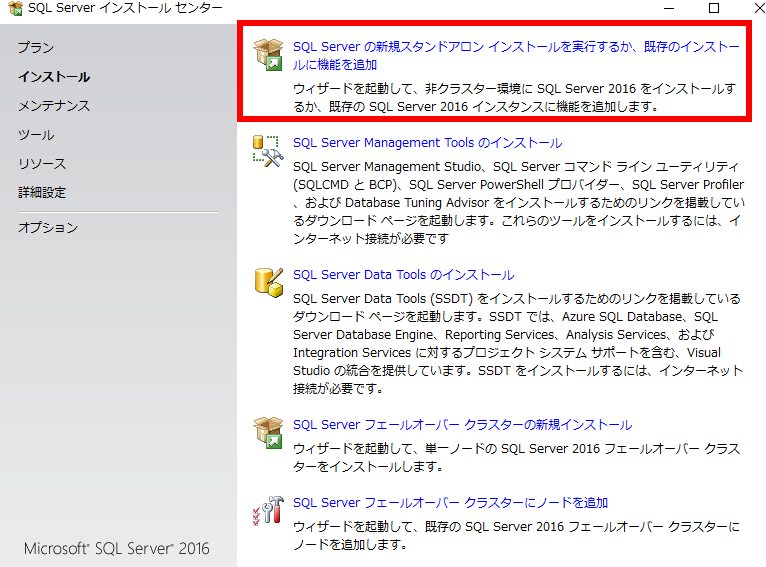
1. setup.exe を実行



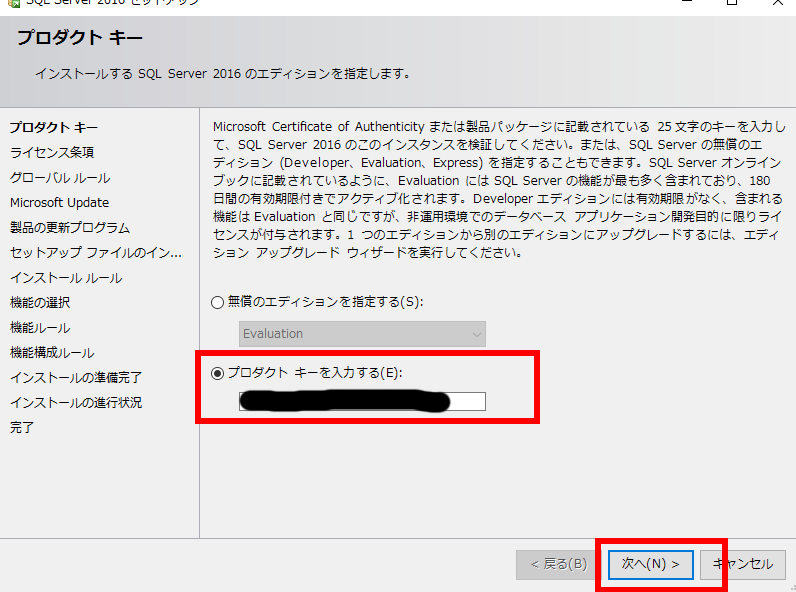
② SQL Serverインストールセンターの画面で、「**インストール**」をクリック



③ 「**SQL Serverの新規スタンドアロン・インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加**」をクリック



**④ プロダクトキー**を入力し、「**次へ**」をクリック

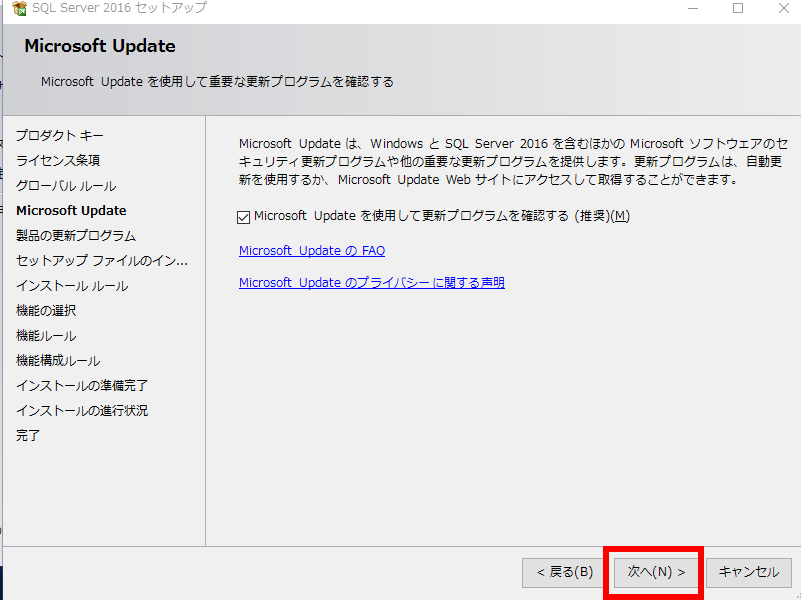


**⑤ ライセンス条項を確認**し、「**次へ**」をクリック

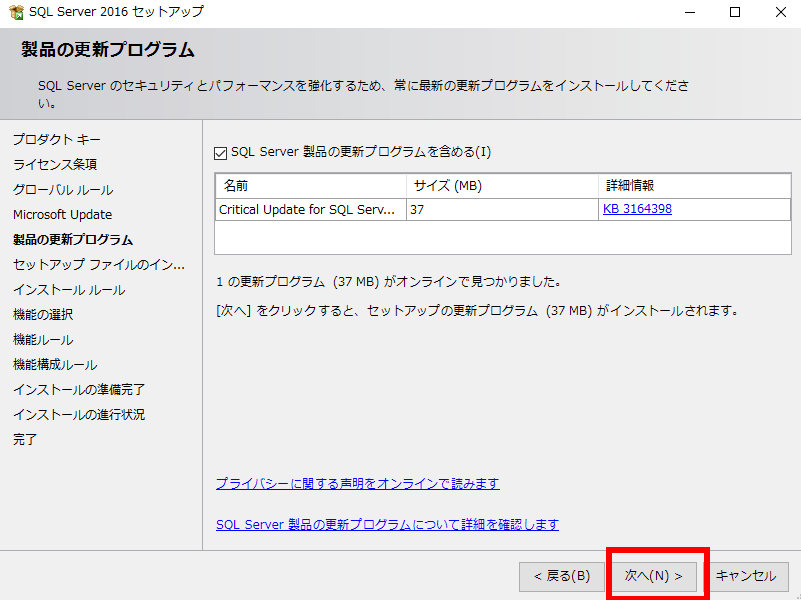


⑥ Microsoft Updateの画面では、

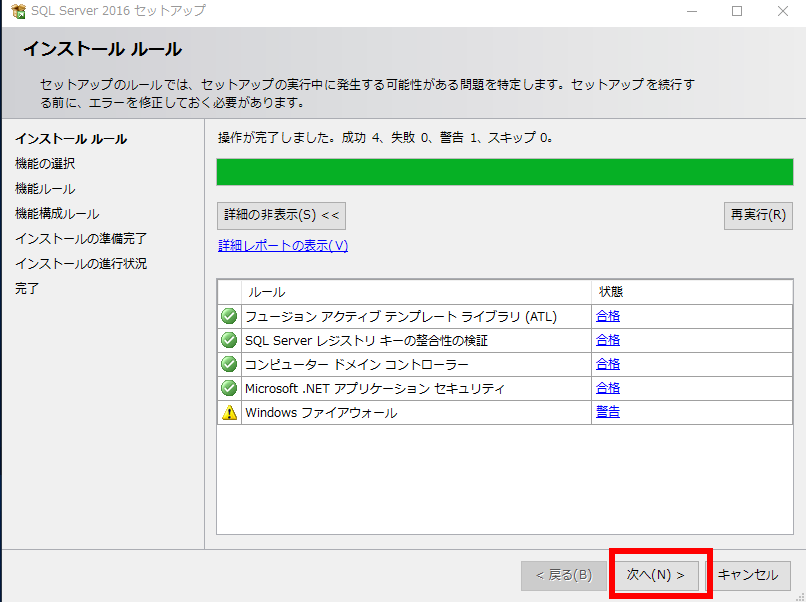
「**Microsoft Updateを利用して更新プログラムを確認する**」をチェックして、「次へ」をクリックする。



⑦ 製品の更新プログラムの画面では、「**次へ**」をクリックする



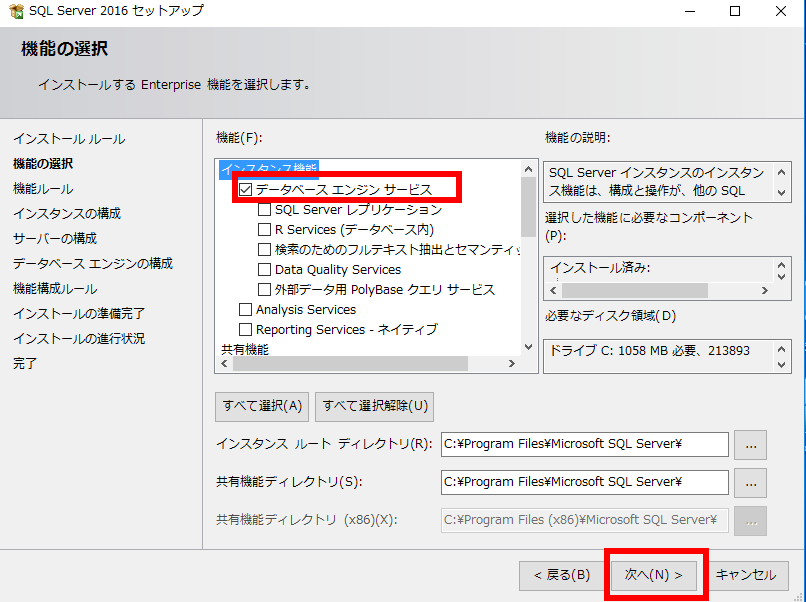
⑧ インストール・ルールの画面では，「**次へ**」をクリックする．



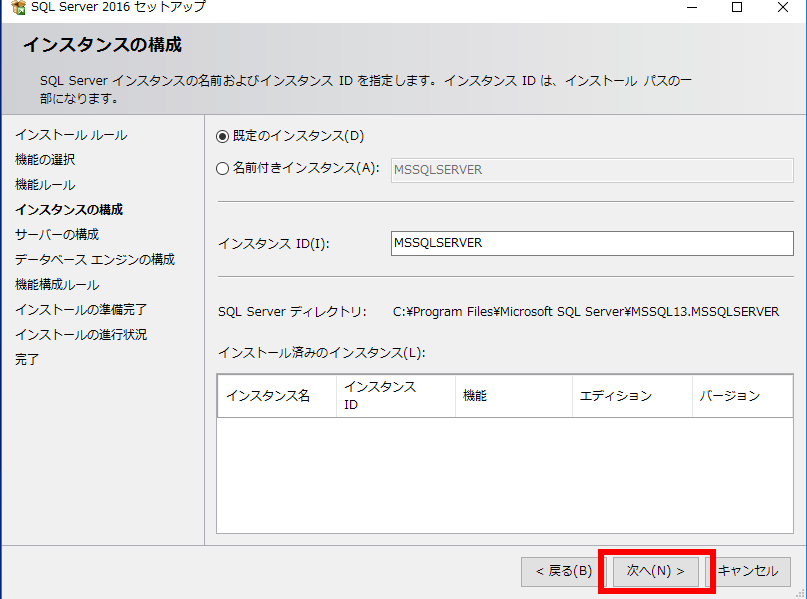
⑨ 機能の選択の画面では，

・「**データベースエンジンサービス**」をチェック

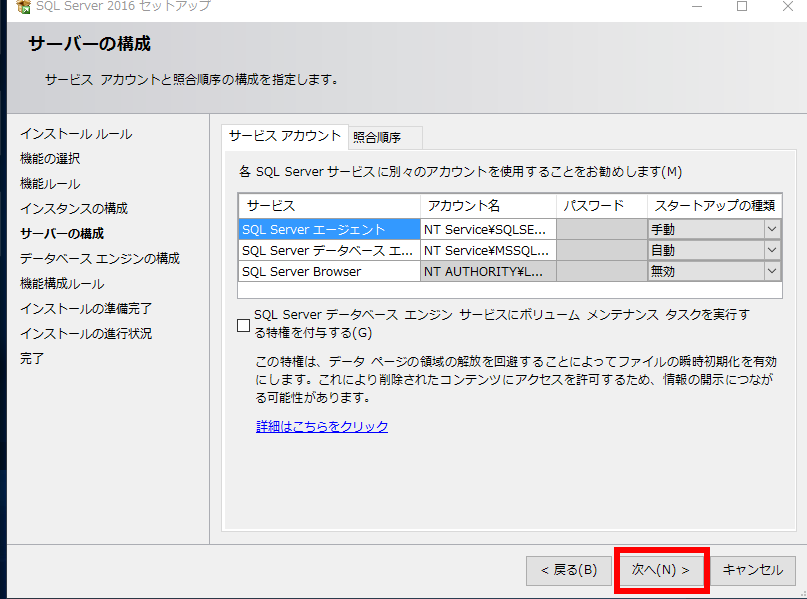
・その他，必要な機能をチェック

その後，「**次へ**」をクリック．

⑩ インスタンスの構成の画面では．「**既定のインスタンス**」のままでよい．「**次へ**」をクリック．



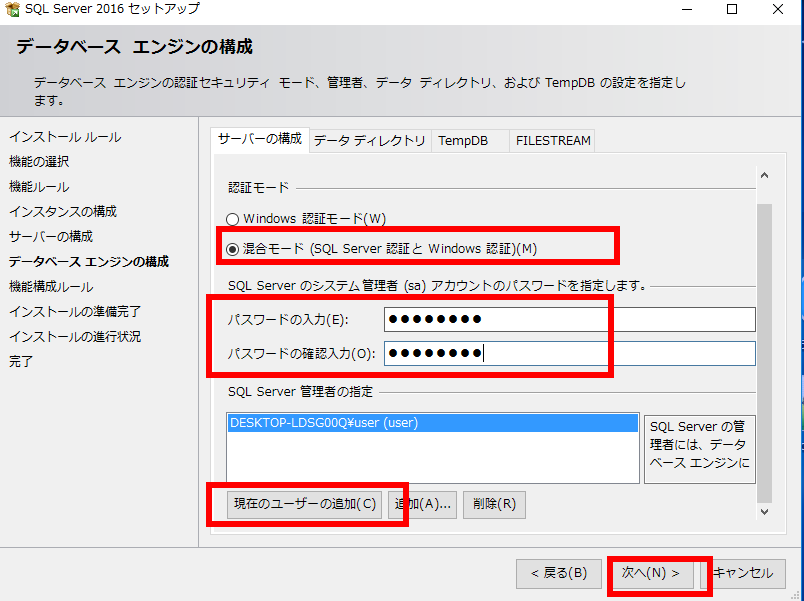
⑪ サーバーの構成の画面．既定（デフォルト）のままでよい．「**次へ**」をクリック．



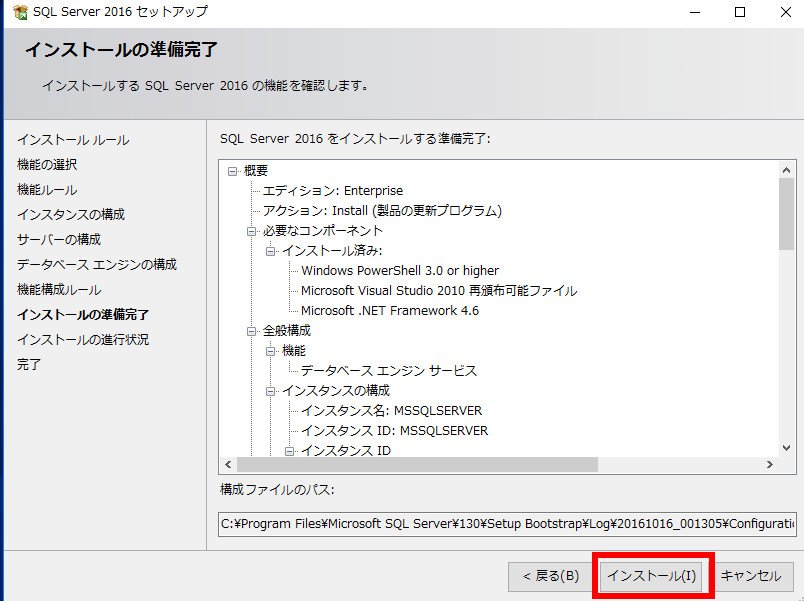
⑫ データベースエンジンの構成の画面では

「**混合モード(SQL Server認証とWindows認証)**」をチェック

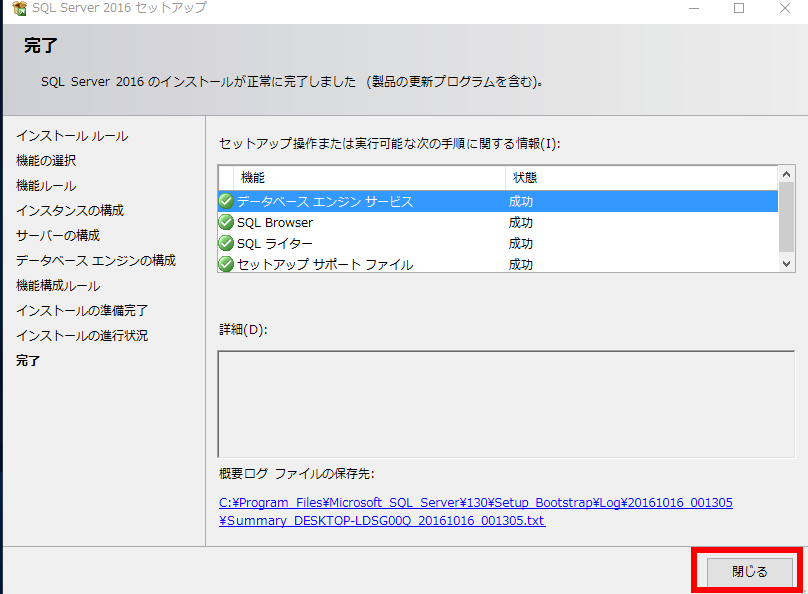
「**現在のユーザーの追加**」をクリックし，**パスワードを適切に設定**して，「**次へ**」をクリック



⑬ インストールの準備完了の画面では，「**インストール**」をクリック．



⑭ 「**閉じる**」をクリック



⑮ インストールが終了するとSQL Server インストールセンターの画面に戻る



**２．SQL Server Management Toolsのインストール**

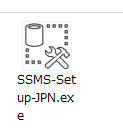


① SQL Serverインストールセンターの画面で、「**SQL Server Management Toolsのインストール**」をクリック



② 「**SQL Server Management Studio のダウンロード**」をクリック



1.  ダウンロードした .exeファイルを**実行**

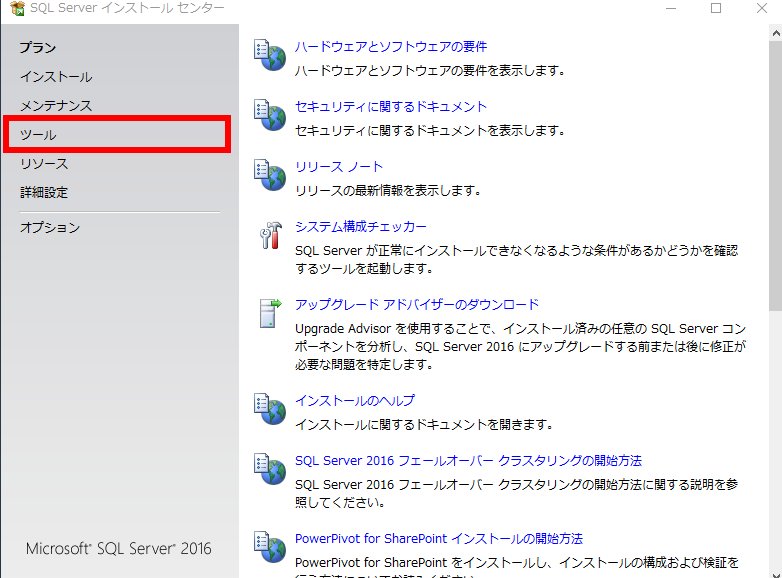
④ ようこそ画面では、「**インストール**」をクリック



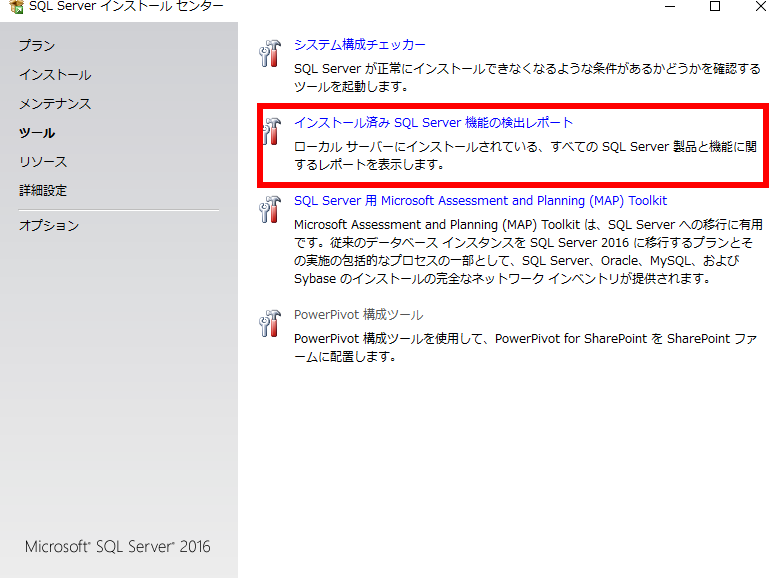
⑤ インストール終了の確認．「**閉じる**」をクリック．



⑥ 確認したいので，SQL Serverインストールセンターの画面で、「**ツール**」をクリックする．



⑦ 「**インストール済みSQL Server機能の検出レポート**」をクリック



**３．ODBC データソースの作成**

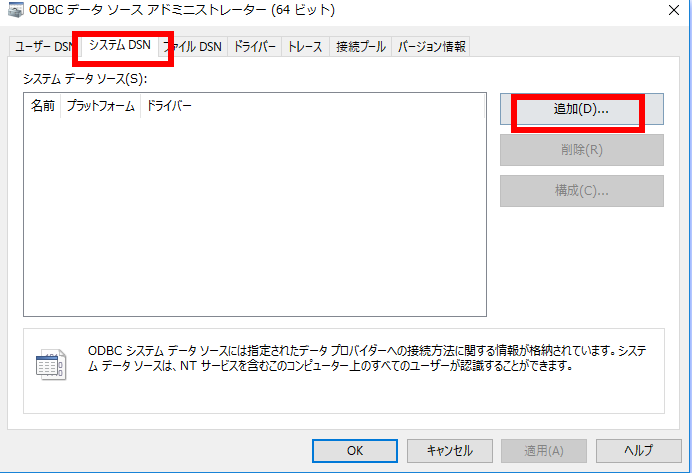


準備として次のことを決めておく

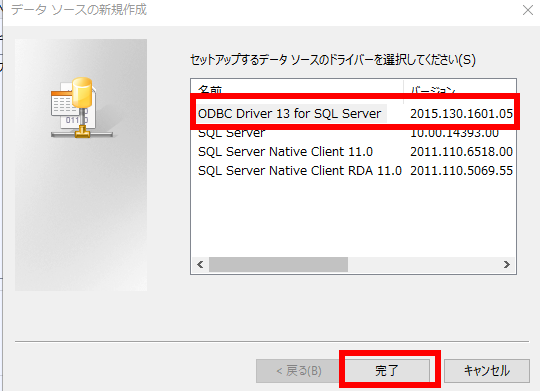
* 種類：**システムDSN**
* データソースの名前：ここでは「**SQL Server**」と設定する
* 接続するSQL Server：ここでは，ローカル接続

① Windows の管理ツールで「**ODBCデータソース(64ビット)**」を選ぶ

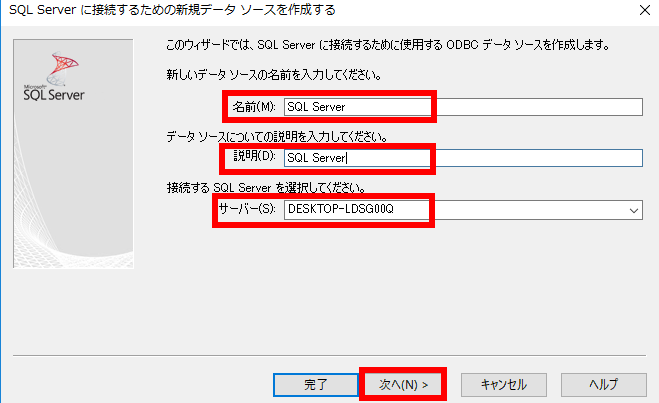
②「**システムDSN**」を選び，「**追加**」をクリック．



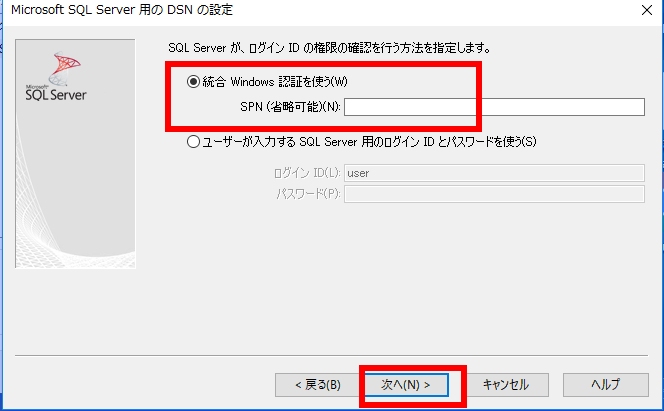
③ 今回は「**ODBC Driver 13 for SQL Server**」を選び，「**完了**」をクリック



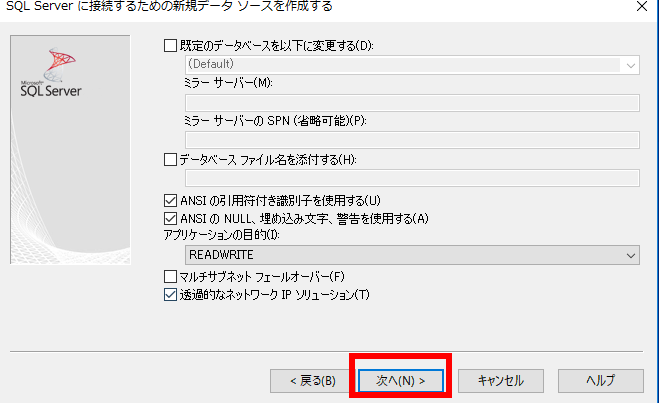
④ **データソースの名前**，**接続するSQL Server**を設定する．



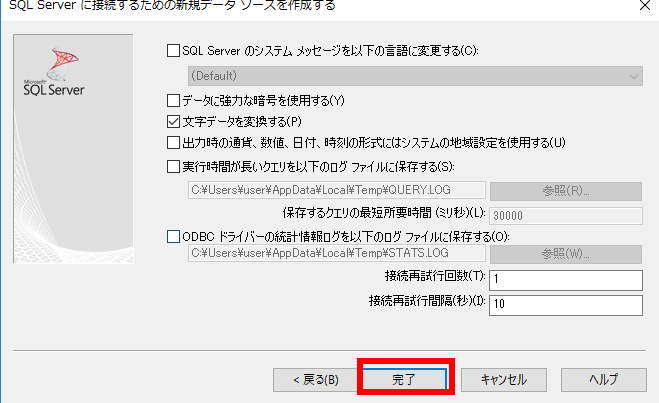
⑤ 「**統合 Windows 認証を使う**」をチェックし，「**次へ**」をクリックする．



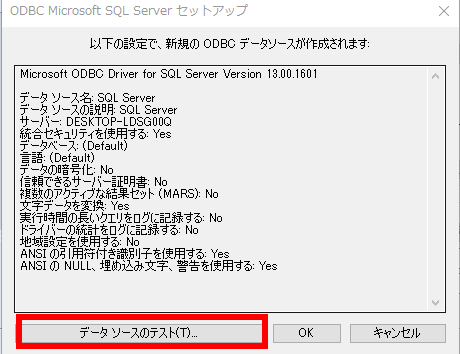
⑥ 「**次へ**」をクリックする．



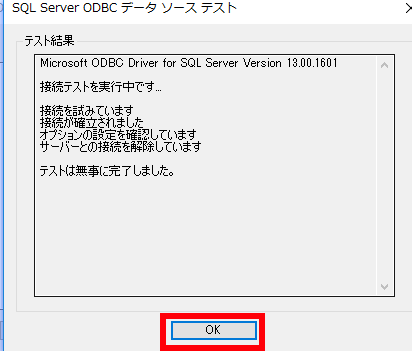
⑦ 「**完了**」をクリックする．



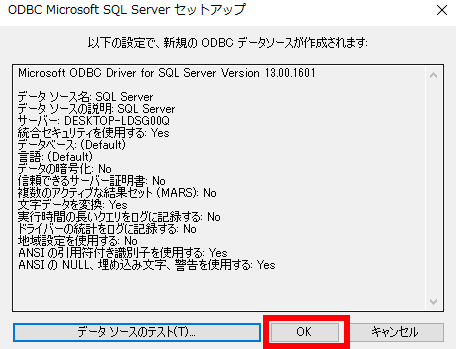
⑧ 「データソースのテスト」をクリックする．



⑨ データソースのテストの結果，「**テストは無事に終了しました**」と表示されることを確認する．「**OK**」をクリックする．



⑩ 新規の ODBC データソースを作成したいので，「**OK**」をクリックする



**４．ODBC データソースにA5:SQL MK-2 を用いて接続**



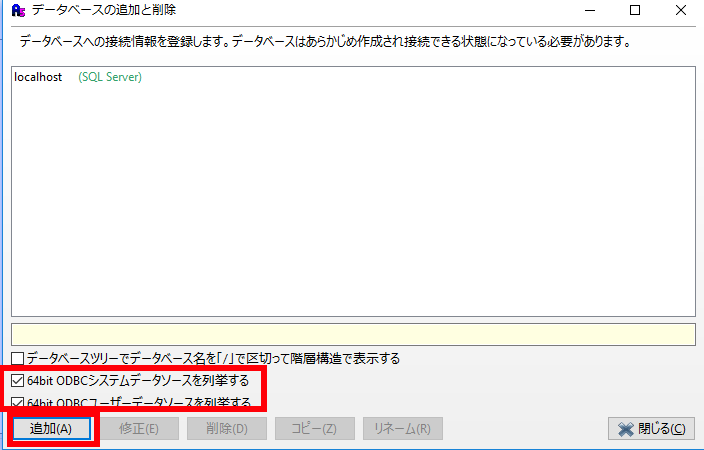
A5:SQL MK-2 は便利なツール．作者に感謝．

① A5:SQL Mk-2 を起動

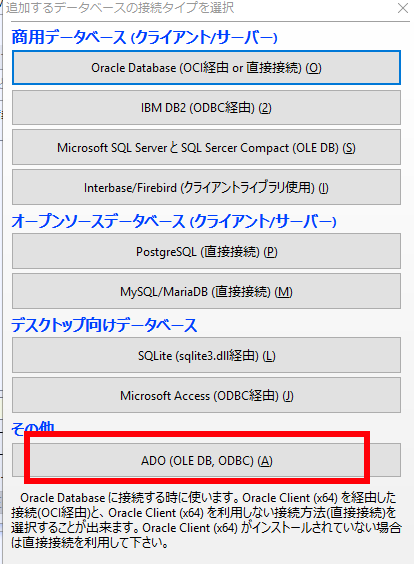
② 2か所にチェックし，「**追加**」をクリック．

　・64ビット ODBCシステムデータソースを列挙する

　・64ビット ODBCユーザデータソースを列挙する

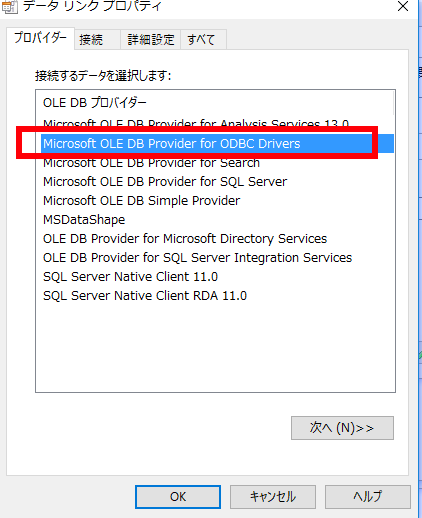


1. **ODBC での接続**を行ってみたいので，「Microsoft SQL Server と SQL Server Compact」は選ばずに「**ADO (OLE DB, ODBC)**」を選ぶ．



④ 接続文字列を設定したいので，接続文字列の「・・・」をクリック．

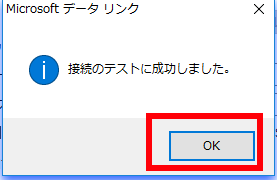


⑤「**Microsoft OLE DB Provider for ODBC Drivers**」をダブルクリック

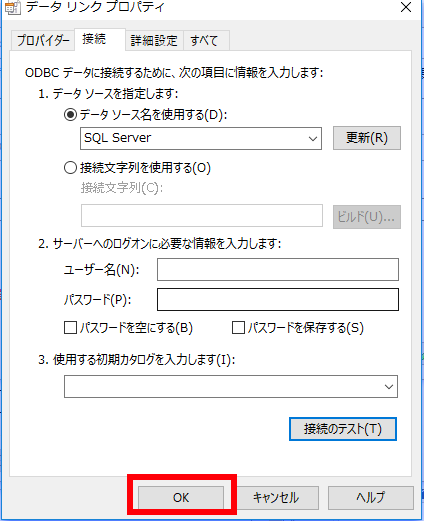
⑥ **接続したいデータソース**を選び，「**接続のテスト**」をクリック．



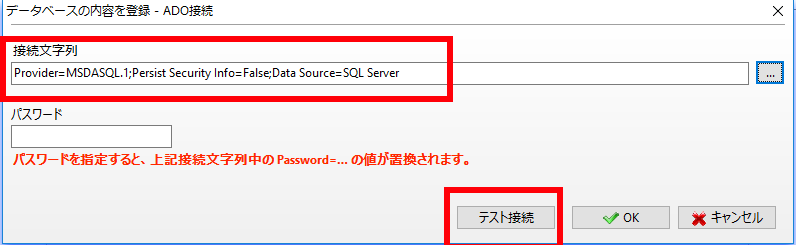
⑦ 「**接続のテストに成功しました。**」を確認し「**OK**」をクリック．



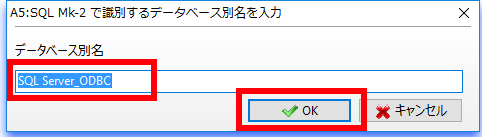
⑧ 「**OK**」をクリック．



⑨ **接続文字列を確認**し，「**OK**」をクリック．



⑩ **データベース別名を設定**し，「**OK**」をクリック．



⑪ 「**閉じる**」をクリック．

